

# 夢きよく 道はるか



## 全国学力・学習状況調査(4月19日実施)の結果より

### ■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して、教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して、指導改善につなげるために実施しているものです。本校の子供たちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

### ■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語・算数/数学・理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。

	国語	数学	理科
山梨県(公立)平均正答率	70	51	50
全国(公立)平均正答率	69.0	51.4	49.3

## 1 調査結果について

### ■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

結果を見ると、本校の国語の平均正答率は、県、全国を上回っています。数学は、県、全国とも若干下回っています。理科は県と同等、全国を若干上回っています。大切なことは結果に一喜一憂することではなく、どの領域がよく、どの領域が落ち込んでいるかを分析し、今後の指導にいかすことです。3年生は進路決定までに、まだ時間が残されていますので、特に正答率の低かった傾向の問題を今後の授業で再度行い、つまづきを解消していきます。

### ■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

#### ・よい傾向が認められる項目

- スマホ等の使い方について家の人と約束したことを守っている
- 学校に行くのは楽しいと思う
- 自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている
- 友達と協力するのは楽しいと思う
- 家で自分で計画を立てて勉強をしている
- 新聞を読んでいる
- 読書が好きである
- 生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、発表する活動に取り組んでいる

#### ・課題と考えられる項目

- 1, 2年生の時に、コンピュータなどICT機器をよく活用した
- 1, 2年生の時に考えを発表する機会では、うまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫した

## 考 察

学習面については総合的にみれば全国、山梨県の水準にあると言えます。しかしながら国語と比較すると数学をもう少し頑張るとよいと考えられます。実際に正答率の低かった問題を次の項目で説明してありますので、同様な問題にチャレンジしてみるとよいでしょう。

質問紙調査から見ると、本校の生徒が前向きに生活していることがわかります。特に、昨年度は課題となっていた自主的な勉強への取組も向上しています。コロナ禍も3年目となり、困難に負けず最後までやり遂げようとする意志が育ってきています。また、学校生活や友達と協力することを楽しいと感じる生徒が多く、昨年度同様、授業や生徒会活動、学級活動で取り組んできた話し合い活動が定着し、話し合いに意義や達成感をもっています。

課題としては、1, 2年生の時にICT機器にあまりふれることができなかった、考えを発表する機会に工夫できなかったと考えている生徒が多いようです。自分を厳しく見つめ、3年時の取組と比較しての様子だと思われますが、1人1台端末を利用した学習の機会をより増やしていくこと、柔軟な表現力の育成、自己肯定感を高める指導に努めていきたいと思いをします。

## 2 各教科の分析結果

### 国語

領域でいうと、「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が、わずかに県を下回っているものの、それ以外は全てが、県、全国を上回っています。ほとんどの設問の正答率は、県、全国を上回り、「文脈に即して漢字を正しく書く」問題については大きく上回っています。一方、「表現の技法について理解する」、「事実や行為、心情を表す語句について理解する」問題については、県、全国を下回っています。

基本的な言語知識はある程度定着しているので、さらに発展して文章表現に生かすことができるような学習を進めていきます。文学的文章において、場面の展開や登場人物の心情の変化が捉えられるように、キーワードや伏線等に注目して読解するよう指導していきます。他の生徒の意見を聞くことにより、別の考えが構築されるという利点があるため、授業の中で小グループの学習を取り入れる等の工夫をします。

### 数学

領域でいうと、「数と式」の正答率は、県、全国を上回っています。特に「自然数を素数の積で表すことができる」問題については大きく上回っています。「図形」、「データの活用」はわずかに下回り、「関数」は下回っています。各問題とも少しずつ下回る傾向がありますが、「データの活用」の「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」問題については下回る一方、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」問題については、記述式の問題であっても上回っています。

個人差もありますが、短答式の問題の正答率は、県、全国を上回り、記述式がほぼ同じなのに対して、選択式が下回っています。数学の用語を正しく理解させるよう、小テスト等を実施し、振り返りを行います。数学に必要な「技能」を身につけさせるため、家庭学習も含め、ワークやプリント等に取り組みます。また、ワークシートの活用や小グループの話し合い等を通して、「説明する」力を育てます。

### 理科

どの領域の正答率も、県、全国とほぼ同等です。「エネルギーを柱とする領域」の「おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する」、「考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすか説明する」問題については、県、全国を上回っています。「地球を柱とする領域」の「上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する」、「東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する」問題については、県、全国を下回っています。

質問紙調査で、理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える生徒が多いように、理科が好きで前向きに取り組んでいることがわかります。今後も、興味・関心を高め、基本的な知識の定着を大切にすることはもちろん、ICT機器等を活用した効率的な授業を行うことで、発展的な問題に取り組む時間を確保したいと思います。実験結果やデータを基に分析して解釈する力を養うことで、さらに深い学びにつなげていきます。

## 3 これからの学校としての取組について

学力向上の基本は「授業」にあります。今までもそうであったように授業を落ち着いた状態でしっかりと受けることが大切です。甲府市教育委員会は以前より「こうふのだから」という授業づくりの7つの視点を定めています。

この7つの視点のうち、今、本校で意識して取り組んでいることが、「こ・子供の視点に立った見通しと振り返り」、「か・学級集団づくりも大切に」です。「個別最適な学び」と「協働的な学び」が大切にされる中、それぞれの子供たち自身が何を学習するのかという見通しをもち、学習した内容の振り返りを行うことは、学力の定着につながります。そのために、1人1台端末を有効に活用していくことや、学びの場となる学級が子供たちにとって意欲的に活動できる場となることが大切です。教材を子供たちにどう提示するかはもちろん、仲間と共に学習に向かうことが楽しいと感ずることができる学級経営を、こころがけていきたいと思ひます。まずは、小グループの活動から「主体的・対話的で深い学び」を目指していきます。

家庭学習については、「自学ノート」を家庭でまとめ、翌日に提出するというサイクルで行っています。良い取組例を提示するなどして生徒同士で学び合い、主体的な学習まで高めていくことを考えています。質問紙調査から、家庭での生活時間が長く、わからないことを家族に聞く傾向もうかがえますので、家庭と学校で協力して取り組んでいくことができると思ひます。